

第 18 回千葉県福祉機器展 2024 ワークショップ 「高齢者とともに生きる未来のロボットを構想しよう！」 レポート

○イベント概要

産業技術総合研究所（産総研）柏センターでは、厚生労働省・介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業の一環で、介護テクノロジーの開発事業者を支援する柏リビングラボを運営しています。柏リビングラボでは介護者や地域の皆様の声を介護テクノロジー開発に反映するためのワークショップを例年開催しており、2024 年 11 月 16 日に千葉県福祉ふれあいプラザで開催された第 18 回千葉県福祉機器展 2024 にて、「高齢者とともに生きる 未来のロボットを構想しよう！」というテーマのもと、市民共創ワークショップを開催しました。本イベントは、柏リビングラボのメンバーである産総研人間拡張研究センターのスタッフに加え、千葉県福祉ふれあいプラザ、並びに一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）の皆様にご支援いただき実現しました。介護や福祉に関心を持つ川村学園女子大学、植草学園大学、千葉県立我孫子東高校の学生の皆様に現役の介護職、さらにアクティブシニアの皆様、総勢 30 名が集まり、5 つのグループに分かれてワークショップを行いました。

○テーマ

今回のワークショップでは、介護業界にも押し寄せるデジタル化の波を背景に、「コミュニケーションロボット」に焦点を当て、高齢者との関わりを深めるために、未来のロボットはどのように進化し、どのような役割を果たすべきなのかを考えました。10 年後の未来を想定し、高齢者とその家族、介護スタッフとの新しいつながりを創出するロボットの姿を、30 秒の CM という形で演技表現（アクティングアウト）を行いました。

○プログラムの流れ

1. イントロダクション

まずは主催者からの簡単な挨拶と目的の共有が行われました。お互いに初対面の人がほとんどのグループの中、参加者たちはこれから何が始まるのか、緊張と不安の入り交じった様子で話を聞いていました。

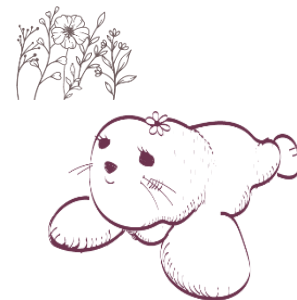


2. 自己紹介・アイスブレイク

最初の活動は、参加者同士の自己紹介とアイスブレイク。「コミュニケーションロボットにどんなイメージを持っていますか？」というテーマで話し合いが始まりました。初めて顔を合わせる人たちが、少しずつ緊張をほぐしながら意見を交換する姿が印象的でした。

3. コミュニケーションロボットの紹介

介護現場の現状や課題についての解説がありました。その後、ペット型ロボットの「パロ」や遠隔操作コミュニケーションロボットといった実際のロボットが紹介されると、参加者たちは興味津々の様子でした。特に「パロ」に直接触れる時には笑顔があふれ、会場は活気に満ちていました。



4. グループワーク 1：CM のコンセプトづくり

次のステップでは、参加者たちがグループごとに「こんな時にこんなロボットがいたら」という場面を共有しました。話し合いの中で浮かび上がる日常のエピソードが、未来のロボットの姿を形作っていきます。徐々にコンセプトが固まり、グループごとのキャッチフレーズを書き出すと歓声が上がりました。

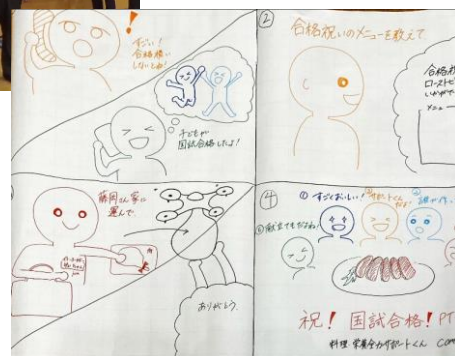
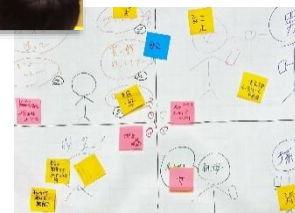


5. グループワーク 2：シナリオづくり

その後キャッチフレーズを基に、CMのシナリオを具体化しました。各グループがストーリーボードを描き、役割分担を決めて練習を重ねます。笑い声が響く中、次第に完成形が見えてくる様子は、まさにチームワークの結晶でした。

6. グループ発表

いよいよ発表の時間。たった数時間前に出会った人たちが、息を合わせて演じる 30 秒の CM は、どれも独創性に溢れていました。情熱的なパフォーマンスに、参加者の皆さんから拍手が止まりませんでした。



7. 振り返り

最後に、それぞれのグループで今日の活動を振り返り、学びを共有しました。介護職の参加者からは「介護職の力を5にも10にもするような技術を作って欲しい」という切実な願いが語られ、さらに「ロボットが人と人を繋ぐコミュニケーションツールになってくれたら嬉しい」という期待も共有されました。参加したシニアの方からは「若い方が技術を含めた介護に対する関心を持っていることに非常に安心した」という感想も寄せられました。「技術と人間のつながりの可能性を感じた」「介護現場におけるロボットの役割をもっと深く考えたい」といった声も多く聞かれ、特に高校生たちの気づきの共有が印象的でした。

〇まとめ

今回のワークショップは、単なる学びの場を超えて、介護現場におけるロボットの可能性を深く探求する機会となりました。参加者たちは「パロ」に触れた際の笑顔や、CM制作を通じたチームワークなど、印象的なエピソードを通して多くの学びを得ました。特に、高校生が技術の可能性に目を輝かせていた様子や、参加者全員が発表時に情熱的に取り組む姿は、会場全体を感動の雰囲気で見守りました。また、5つのユニークな未来ロボットCMが完成し、技術と介護が融合した未来のビジョンを共有する成果を上げました。

こうした体験を通じて、参加者同士が知識や感情を共有することで、「人と技術が調和する未来」のビジョンを鮮明に描くことができました。この体験が、特に参加した未来の介護・福祉を担うであろう学生の皆さんにとって、未来の介護と技術の接点を考える第一歩として、意義あるものとなればうれしく思います。

